

三木清の満洲体験と共生社会論

—東亜協同体理念の光と影—

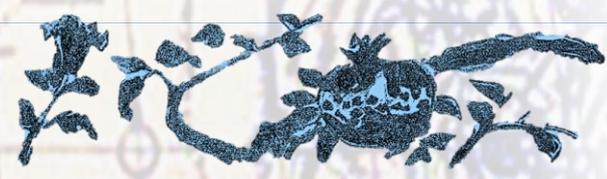


国立国会図書館
「近代日本人の肖像」

対面開催
・
参加費無料

「日時」 2024年
7月20日 (土)
14:00～16:00

「会場」 法政大学市ヶ谷キャンパス
大内山校舎5階Y506



報告者

宮島 光志

富山大学学術研究部元教授
法政大学国際日本学研究所客員所員

コメンテーター

菅沢 龍文

法政大学文学部教授

司会

横山 泰子

法政大学理工学部教授
法政大学国際日本学研究所長

三木清（1897-1945）は中国東北部の満洲を何度か訪問し、その実体験も活かしながら《日本・東洋・西洋の歴史と文化》について総合的な思索を展開しました。三木が唱えた「東亜協同体論」はそうした思索のエッセンスと言えますが、日本の傀儡国家「満洲国」の成立と崩壊という現実を前にして、三木が描いた東アジア諸民族の協同社会というヴィジョンは淡い夢に終わりました。

本報告では、法政大学市ヶ谷図書館所蔵「三木清文庫」の調査も踏まえて、三木の東亜協同体論を「共生社会の哲学的基礎づけ」として再評価してみます。三木の「東洋的ヒューマニズム」理念についても、国際的な日本学の展開という見地から、その現代的な意義を考察してみます。

三木清文庫

*【お願い】以下のQRコードから事前に参加申込をお願いします。

